

巻 頭 言

一般社団法人 日本数学会 理事長
鎌田 聖一

毎年春には年会を、秋には秋季総合分科会を開催することは、日本数学会における最も重要な事業です。そこでは多くの研究成果の発表が行われますが、学会会場に我々会員が集い、討論や情報交換などの交流も行われます。このような活動も学会開催の重要な意義と言えるでしょう。残念ながらここ数年はコロナ禍のため、多くの研究集会やセミナーなど研究活動の対面での実施が制限されてきました。日本数学会でも2020年度年会（日本大学）の現地開催は中止となり、続く2020年度秋季総合分科会（熊本大学）、2021年度年会（慶應義塾大学）、2021年度秋季総合分科会（千葉大学）、2022年度年会（埼玉大学）は現地開催からオンライン開催へと変更されました。しかし、コロナ禍もようやく収束に向かい、2022年度秋季総合分科会（北海道大学）では対面での開催が実現し、2023年度年会（中央大学）も無事に対面で開催されました。対面での開催に戻ることで、参加者同士の交流も再び活性化しています。これは非常に喜ばしいことです。次回の秋季総合分科会は、東北大学で9月20日（水）から9月23日（土）の日程で開催されます。引き続き対面での開催となるため、多くの皆様にご参加いただき、ぜひこの機会に参加者同士の交流にご活用いただければ幸いです。

さて、話題を変えて、秋季総合分科会の前日である9月19日（火）には、日韓数学会合同会議（MSJ-KMS Joint Meeting 2023）が開催されることをご存知でしょうか。これは日本数学会と大韓数学会（KMS）との間の交流事業の一環として開催されるものです。両学会の間の研究交流をより活発にすることを目的として合同会議を定期的で開催しています。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大のため延期となり、2021年にオンライン形式で開催されました。今回は再び対面形式で、9月19日（火）にMSJ-KMS Joint Meeting 2023として開催されます。午前中は全体講演として、日本と韓国から1件ずつの招待講演があり、午後はパラレルセッション形式となり、四つのセッション（代数学、幾何・トポロジー、解析学、確率論と応用数学）のそれぞれで、日本から2件、韓国から2件の招待講演が行われます。会場は仙台国際センターです。詳細については日本数学会のホームページをご確認ください。会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

また、日本数学会は大韓数学会との間で、学会における招待講演者の相互派遣や交換会員制度の導入、学術雑誌の交換、そして日本数学会季期研究所（MSJ-SI）への若手研究者の招聘など、研究交流事業を行っています。今回の秋季総合分科会には、大韓数学

会からの代表団が来日し、企画特別講演での招待講演も予定されていますので、こちらにも皆様のご参加をお待ちしております。

ここで個人的な話になりますが、大韓数学会の会長である Jongil Park 氏と私は同じ低次元トポロジーの研究をしていることもあり、かねてより交流がありました。昨年の年末に釜山で開催された研究集会に参加した際にもお会いしましたが、その時に彼が「今度大韓数学会の会長になり、その引き継ぎなどでとても忙しい」と話していたことを思い出します。私はおめでとうと祝辞を述べたと同時に（研究や自分の時間が取りにくくなるという意味で）お気の毒だと冗談を言ったのですが、その時はまさか私が日本数学会の理事長になるなんて全く想定していませんでした。不思議な巡り合わせを感じています。

私は 2021 年度と 2022 年度の 2 年間、理事として学術委員会、教育研究資金問題検討委員会、奨励研究生選考委員会を担当しました。その中で、コロナ禍によって最も影響を受けた事業は日本数学会季期研究所（MSJ-SI）でした。海外から招聘予定だった研究者が日本へ入国できなくなり、また国内でも対面での集会が制限されたため、急遽オンラインやオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式での開催を余儀なくされたり、海外から来日予定の研究者が直前まで日本への渡航手続きが定まっていないなど、様々な困難が生じました。その都度、臨機応変に対応し、最善の形で MSJ-SI を開催していただいたことに対し、当時の担当理事として、また理事長として、この場を借りて組織委員長や組織委員の皆様へ感謝申し上げます。

大韓数学会との間で MSJ-SI への若手研究者の招聘などの研究交流事業を行っているとは先ほど申し上げましたが、コロナ禍の前は大韓数学会と台湾数学会のそれぞれから 3 名ずつを MSJ-SI へ招聘していました。コロナ禍によりこの招聘も中断しましたが、2024 年度から再開する予定です。

さて、学会の話題に戻しましょう。来年は 2024 年度年会が大阪公立大学、秋季総合分科会が大阪大学で開催予定です。同じ年度に年会と秋季総合分科会の両方が大阪で開催されるのは初めてのことです。コロナ禍の前はインバウンドの増加などにより、大阪のホテルの予約は困難だったそうですが、大阪・関西万博の開催に向けて交通インフラやホテルなどの宿泊施設が整備されていると聞いていますので、遠方からの参加者も以前よりも快適に過ごすことができるのではないかと期待しています。来年度もぜひご参加をいただけることを心よりお願い申し上げます。

このような活動を通して、より多くの研究者や教育者を支援し、若手研究者の育成、数学の普及と発展に努めてまいります。引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げます。